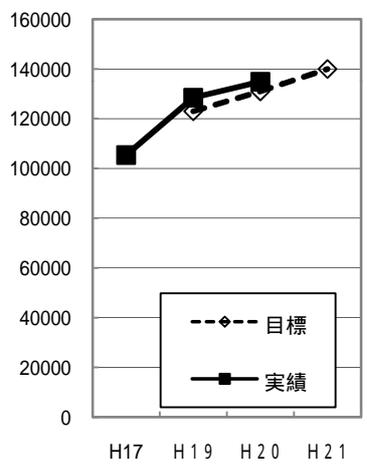


評価対象年度	平成20年度	施策評価シート		政策	5	施策	12
施策名	12 宮城の飛躍を支える産業基盤の整備			施策担当部局	土木部、警察本部		
「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	5 産業競争力の強化に向けた条件整備			評価担当部局 (作成担当課室)	土木部 (土木総務課)	
施策の目的 (目標とする宮城の姿)	<p>仙台塩釜港は、周辺地域と一体となって、東北地方の持続的な経済成長と国際競争力を支える中核的国際物流拠点として発展している。</p> <p>石巻港は、県北部地域の経済を支える産業拠点として重要な役割を担っている。</p> <p>仙台空港は、東北の空の玄関にふさわしい豊富な国際路線を有し、東北の中核空港として国内外からの利用者が増加するとともに、周辺地域には、空港関連のサービス業や流通業等が集積している。</p> <p>広域的物流・交流や広域連携強化のための道路網が構築され、県内各地域の移動時間が短縮されている。</p>						
その実現のために行う施策の方向	<p>貨物量の増加や船舶の大型化に対応した岸壁やふ頭用地の造成など、港湾機能拡充のための施設整備</p> <p>港湾貨物の需要開拓及び新規航路開設に向けた誘致活動(ポートセールス)の強化</p> <p>仙台港背後地の整備など港周辺地域の貿易関連機能や流通・工業機能の整備促進</p> <p>空港の新規路線開設及び運休路線の再開に向けた誘致活動(エアポートセールス)の強化</p> <p>仙台空港アクセス鉄道沿線の臨空都市整備など産業経済拠点の形成に向けた流通・商業機能の整備促進</p> <p>三陸縦貫自動車道など高速道路網及び広域ネットワークの形成に向けた道路網の整備促進</p>						
事業費 (単位:千円)	年度	平成19年度 (決算額)	平成20年度 (決算(見込)額)	平成21年度 (決算(見込)額)			
	県事業費	16,339,093	16,594,881	-			
施策に関する社会経済情勢等の状況 (全国・本県の状況、法令・条例・計画等策定の状況等について)							
<p>・仙台北部中核工業団地にトヨタ東北(株)がエンジン工場新設やパナソニックEVエナジー(株)の大和流通・工業団地への立地が決定し、第二北部工業団地ではセントラル自動車(株)の工場建築が着工するなど、企業立地が進んでいる。今後も「自動車関連産業」や「高度電子機械産業」の産業集積に向けた取組が求められる。</p> <p>・県内に立地する企業や今後進出が見込まれる企業の物流ニーズに対応するため、仙台北部道路などの道路ネットワークや、港湾・空港等の物流基盤の一体的な整備が求められている。</p> <p>・新規開発工業団地においては、大規模製造業施設や各種流通関連企業が進出することにより、同地域内の交通量の増加及び交差点における交通事故の発生が懸念されるため、交通信号機等の交通安全施設の整備が必要である。</p>							
県民意識調査結果							
調査対象年度 (調査名称)			平成19年度 (平成20年県民意識調査)		平成20年度 (平成21年県民意識調査)		
この施策 に対する 重視度	重 要	重視の 割合	29.9%	63.4%	29.5%	66.6%	
	やや重要		33.5%		37.1%		
	あまり重要ではない		11.7%	10.1%			
	重要ではない		3.5%	3.7%			
	わからない		21.4%	19.7%			
調査回答者数		1,727	1,826				
この施策 に対する 満足度	満 足	満足の 割合	8.0%	38.2%	7.6%	42.8%	
	やや満足		30.2%		35.2%		
	やや不満		18.8%	18.4%			
	不満		6.3%	7.3%			
	わからない		36.6%	31.5%			
調査回答者数		1,701	1,806				
調査結果について	<p>・「重視」の割合は66.6%であり、この施策を重視している人の割合は7割近くに上がっている。</p> <p>・「満足」は42.8%と4割程度にとどまっており、今後も産業基盤の整備を促進する必要がある。</p> <p>また、「わからない」と回答した人が31.5%となっており、事業の周知に今まで以上に努める必要がある。</p> <p>・優先すべき事項としては、「三陸縦貫自動車道など高速道路網及び広域ネットワークづくりに向けた道路網の整備促進」が最も高い割合を占めており、高速道路等の一層の整備が求められている。</p>						

目標指標等の状況

目標指標等の達成度 A:「目標値を達成している」
 B:「目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と同方向に推移している、又は現状維持している」
 C:「目標値を達成してあらず、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と逆方向に推移している」
 N:「現況値が把握できず、判定できない」

目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
1 仙台塩釜港(仙台港区)のコンテナ貨物取扱量(単位:TEU)	指標測定年度	H17	H19	H20	H21
	目標値(a)	-	123,000	131,000	140,000
仙台塩釜港(仙台港区)における外国貿易に係る実入りコンテナ貨物の取扱量	実績値(b)	105,380	128,461	134,856	-
	達成(進捗)率(b)/(a)	-	104%	103%	-
	達成度	-	A	A	-

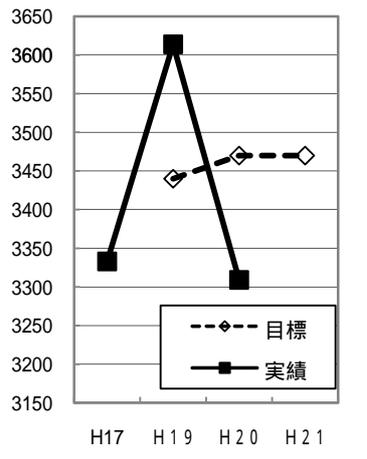


目標値の設定根拠
 ・定期コンテナ航路の開設以来、コンテナ貨物取扱量(全て海外が最終仕向地)は実入り、空きコンテナともに順調に推移してきている。平成18年3月に東北地方整備局から出された「港湾整備基礎調査報告書」による将来推計を参考に目標を設定した。
 ・なお、今般の世界的な経済危機により国際的な荷動きの減退(貨物量の発生が大幅に減少している状況)の継続が想定されるが、景気回復時期を判断できないため、現時点では平成21年度の目標の修正はしていない。

実績値の分析
 ・個別企業訪問や各種セミナーにおいて、仙台塩釜港利用の企業メリット(コスト削減、CO2削減)や利便性を積極的にPRしており、その結果、目標値を約3,800TEU上回り(平成20年度:対前年比5%増)、順調に推移してきた。

全国平均値や近隣他県等との比較
 ・新聞報道等で公表(速報)している数字をみると、平成20年の他港の状況は、北海道・東北で苫小牧港(実入り 2.1%)、新潟港(実入り 2.3%)、小名浜港(実入り 9.0%)であり、他の主要港では神戸港(実入り+1.0%)、大阪港(空コンテナ込み 1.0%)である。

目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
2 仙台塩釜港(仙台港区)の取扱貨物量(コンテナ貨物除き)(単位:万トン)	指標測定年度	H17	H19	H20	H21
	目標値(a)	-	3,440	3,470	3,470
仙台塩釜港(仙台港区)におけるコンテナ貨物を除く取扱貨物量	実績値(b)	3,333	3,614	3,309	-
	達成(進捗)率(b)/(a)	-	105%	95%	-
	達成度	-	A	C	-

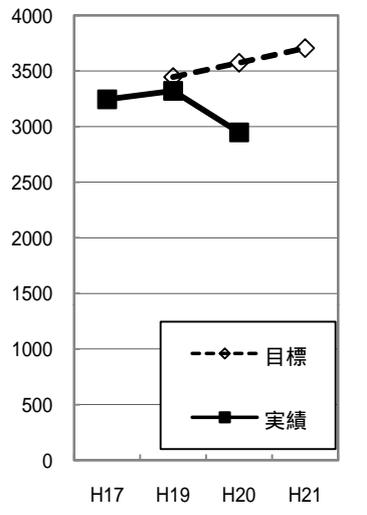


目標値の設定根拠
 ・平成17年での取扱貨物量をもとに、企業とアラインにより、増加が見込まれた完成自動車と穀物類の予想取扱量を加味し、目標値を設定した。
 ・なお、今般の世界的な経済危機により国際的な荷動きの減退(貨物量の発生が大幅に減少している状況)の継続が想定されるが、現時点では平成21年度の目標の修正はしていない。

実績値の分析
 ・世界的な経済危機の影響により、取扱貨物量(コンテナ貨物除き)は対前年305万トンの減となった。そのうち、完成自動車の取扱量の落ち込みが最も著しく、対前年180万トンの減となった。

全国平均値や近隣他県等との比較
 ・東北各港で現時点(平成21年4月)での平成20年の取扱量を公表しているところはないが、平成19年においては、仙台塩釜港は最も多い取扱量となっており、仙台塩釜港を取り巻く状況から判断して、平成20年においてもその傾向に変化はないものと予想される。

目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
3 仙台空港利用者数(単位:千人)	指標測定年度	H17	H19	H20	H21
	目標値(a)	-	3,446	3,574	3,706
仙台空港を発着する国内線、国際線旅客便を利用する旅客数	実績値(b)	3,244	3,321	2,947	-
	達成(進捗)率(b)/(a)	-	96%	82%	-
	達成度	-	B	C	-

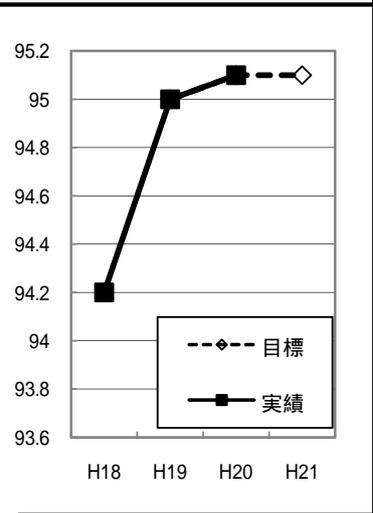
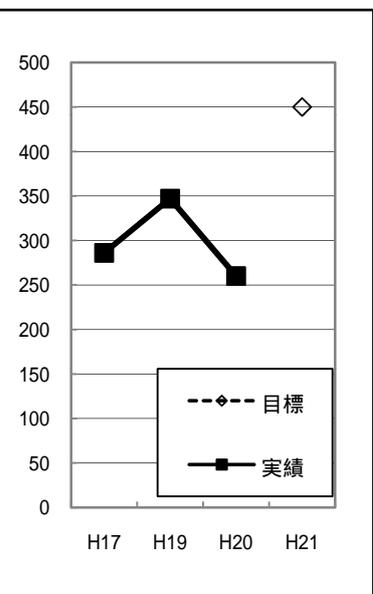


目標値の設定根拠
 ・目標値である仙台空港旅客数は、過去20年間の航空旅客数やGDPの動向を基に将来予測を行い算出している。

実績値の分析
 ・平成20年度の仙台空港利用者数(国内線、国際線)は、目標値対比で82.5%であるが、平成20年度前半は急激な原油高騰(燃料サーチャージの高騰)により、また、後半は世界的な景気悪化により旅客や貨物の需要が減少していることからやむを得ず、また、そのような中において、福岡線及び札幌便が増便(平成21年4月-)されたことから、ある程度事業の成果はあったと判断できる。

全国平均値や近隣他県等との比較
 -

目標指標等名(下段:説明)		評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
4	仙台空港国際線利用者数(単位:千人)	指標測定年度	H17	H19	H20	H21
		目標値(a)	-	-	-	450
	仙台空港を発着する国際線旅客便を利用する旅客数	実績値(b)	289	347	260	-
		達成(進捗)率(b)/(a)	-	-	-	-
		達成度	-	B	C	-
目標値の設定根拠	<p>・仙台空港国際線利用者数を平成21年度において平成17年度の55%増を目指すものとし、みやぎ国際戦略プランの「香港・台湾プロジェクト」に係る目標値を設定した。</p>					
実績値の分析	<p>・平成20年度の仙台空港国際線利用者数は、前年度対比74.9%であるが、平成20年度前半は急激な原油高騰(燃油サーチャージの高騰)により、また、後半は世界的な景気悪化により旅客や貨物の需要が減少していることからやむを得ないものと判断される。</p> <p>(参考) 仙台空港国際線利用者数 平成18年度(実績値) 339千人</p>					
全国平均値や近隣他県等との比較	-					
目標指標等名(下段:説明)		評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
5	高速道路のインターチェンジに40分以内で到達可能な人口の割合(単位:%)	指標測定年度	H18	H19	H20	H21
		目標値(a)	-	95.0	95.1	95.1
	高速道路インターチェンジまでの到達時間が40分以内となる地域内人口の県総人口に対する割合	実績値(b)	94.2	95.0	95.1	-
		達成(進捗)率(b)/(a)	-	100%	100%	-
		達成度	-	A	A	-
目標値の設定根拠	<p>・国内交流を進めるための交通基盤整備の指標としては、国内各地と連携する高速道路ICまでの行きやすさが適切と考えられる。</p> <p>・目標値の設定は、三陸縦貫自動車等の供用時期を加味して設定している。</p>					
実績値の分析	<p>・平成20年度は新たに登米ICまで供用し、計画どおり目標値を達成した。</p>					
全国平均値や近隣他県等との比較	-					



施策評価(総括)

施策の成果(進捗状況)	評価	評価の理由
<p>・目標指標等, 県民意識調査結果, 社会経済情勢, 事業の実績及び成果等から見て, 施策に期待される成果を発現させることができたか(「目標とする宮城の姿」に近づいているか)。</p>	概ね順調	<p>・目標指標等について 「仙台塩釜港(仙台港区)のコンテナ貨物取扱量」は目標値を上回り, 順調に推移している。「仙台塩釜港(仙台港区)の貨物取扱量(コンテナ貨物除き)」は目標値を下回っており, 世界的な経済危機の影響による取扱貨物量の減少が原因と思われる。また, 「仙台空港利用者数」は目標値を下回っており, また, 「仙台空港国際線利用者数」も前年度比74.9%と下回ったが, 平成20年度前半の原油高騰や後半は世界的な景気悪化により旅客や貨物の需要が減少したことが原因と思われる。「高速道路のインターチェンジに40分以内で到達可能な人口の割合」は95.1%と目標値を達成している。</p> <p>・県民意識調査結果について 「重視」の割合は66.6%と「あまり重要ではない」「重要ではない」とする割合13.8%を大幅に上回っており, 県民は本施策を必要と感じていると判断できる。また, 「満足」の割合は42.8%となっており, 今後も本施策を推進する必要がある。</p> <p>・社会経済情勢について 仙台第二北部工業団地にセントラル自動車(株)の工場建築が着工され, 周辺工業団地にも企業の立地が決定しており, 道路・港湾・空港等の物流基盤の整備が進められた結果と考えられる。</p> <p>・事業の実績及び成果等について 施策を構成する各事業は, 施策実現のための必要性は妥当であり, 一定の成果があったと判断できる。</p> <p>・以上のことから, 施策の進捗状況は概ね順調と判断する。</p>

施策を推進する上での課題等と対応方針

事業構成について	事業構成の方向性	方向性の理由
<p>・施策評価の結果, 県民意識調査結果, 社会経済情勢及び事業の分析結果(必要性・有効性・効率性)から見て, 施策の目的を達成するために必要な事業が設定されているか。事業構成を見直す必要はないか。</p>	現在のまま継続	<p>・施策の進捗状況は概ね順調である。また, 事業の分析結果から, 各事業とも成果を上げており, 今後も継続して推進することが必要である。したがって, 事業構成は現在のまま維持する。</p>

施策を推進する上での課題等 施策が直面する課題や改善が必要な事項等(の事業構成に関する事項を除く。)

・施設の整備には, 多額の費用と多くの時間を要するとともに, 緊縮財政の下で効率的な執行が求められている。
 ・仙台塩釜港ではコンテナ貨物取扱量が過去最高の取扱貨物量を記録しており, 県内立地企業の増加によるコンテナ貨物等の増大への対応や船舶の大型化への対応が必要となっている。

次年度の対応方針 及び への対応方針

・各事業の推進にあたっては, 一層のコスト縮減と事業の効率化を図る。
 ・仙台塩釜港については, 平成20年度に改訂した港湾計画に基づき, 計画的かつ段階的に整備を推進する。

施策を構成する事業の状況 (事業分析シートより)

事業の状況					事業の分析結果			次年度の方向性		
番号	名称 (担当部局・課室名)	県事業費 (決算見込, 単位:千円)	活動の状況 (活動指標)	成果の状況 (成果指標)	必要性	有効性	効率性			
1	仙台国際貿易港整備事業	1,646,100	コンテナターミナル拡張	0.7ha	コンテナ貨物取扱量(実入り)	134,856 TEU	妥当	成果があった	効率的	拡充
	土木部・港湾課		ガントリークレーン	946m						
2	石巻港整備事業	1,263,600	南防波堤整備	1,740m	製造品出荷額(木材・木製品, 紙・パルプ)	1,393億円	妥当	ある程度成果があった	効率的	維持
	土木部・港湾課		西防波堤整備	612m						
3	港湾振興対策事業	4,157	企業訪問件数	98件	コンテナ貨物取扱量(実入り)	134,856 TEU	妥当	成果があった	効率的	拡充
	土木部・港湾課									
4	仙台港背後土地地区画整理事業	1,603,152	土地造成面積	6.4ha	仙台港背後土地地区市街化率	64.4%	妥当	成果があった	効率的	拡充
	土木部・都市計画課									

